

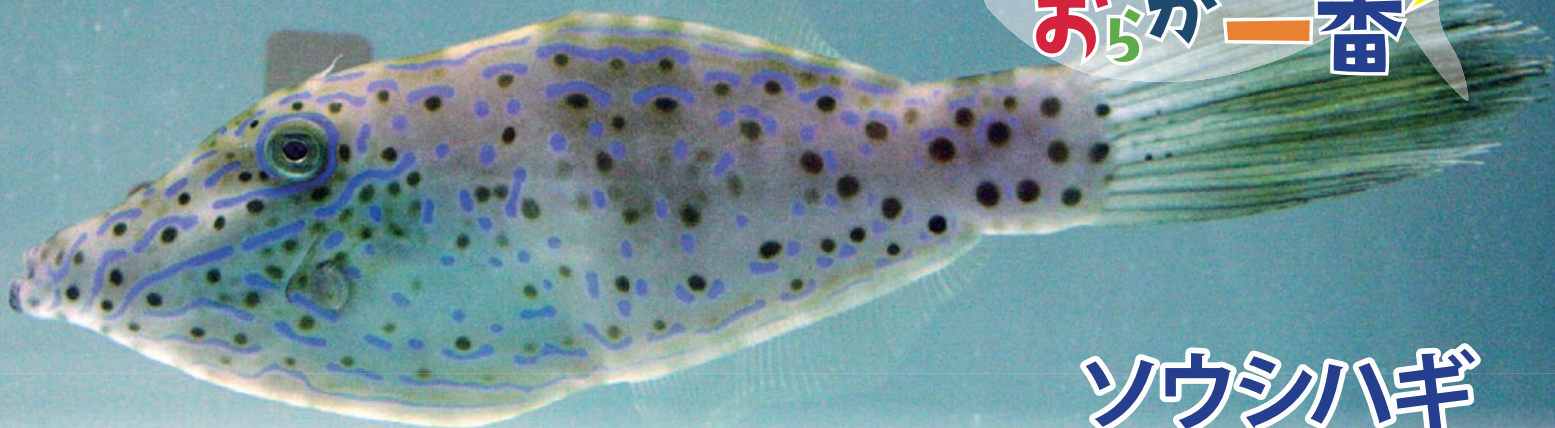
能登の 海からのたより

2023.4 No. 80



新たに仲間入りしたジンベエザメ2頭の愛称決定！

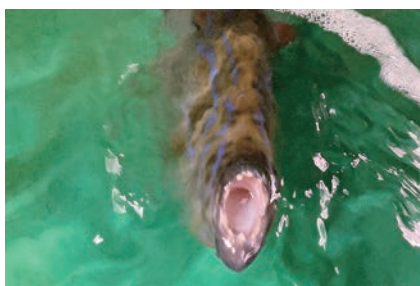
2022年9月下旬から新たに仲間入りしたジンベエザメ2頭の愛称が、オスは“ハチベエ”、メスは“ハク”に 決定しました。現在は新たな環境にも慣れて悠々とした迫力の泳ぎをみせてくれています。ぜひ、2頭の大きさを皆さんご自身で体感してみてください。



ソウシハギ

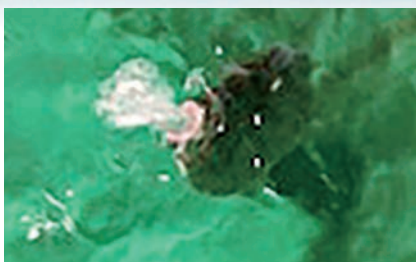
ソウシハギとは

2022年の12月下旬に石川県羽咋市志賀町の福浦港でソウシハギが獲れたことがニュースにも取り上げられたのですが、皆さんはご覧になったでしょうか。普通の魚が獲れただけでニュースなのは難しいですがソウシハギがニュースになってしまうのには理由があります。一つは、フグ毒の数十倍の毒性がある「パリトキシン」という毒を内臓に持っていること、もう一つは季節来遊魚（死滅回遊魚）で、石川県には、秋から冬の初めにやってくる普段はいない魚であることが理由です。



ソウシハギは、大きな尾ビレとおちよぶくち、体表には鮮やかな青の斑紋が特徴で、大きく成長するものは80cm以上にもなるといわれ、カワハギの仲間の中では大型の魚です。かわいらしいおちよぶくちですが、鋭い歯が生えています。雑食性で、エビやカニなどの甲殻類、イソギンチャクなどの刺胞動物、軟体動物などさまざまなものを食べています。当館では、細長く切ったイカやオキアミを食べています。エサに食欲で水槽を覗き込むと、エサをよこせよと口から水を吐き出してアピール

してきます。



水をはいてアピールするソウシハギ

温帯から熱帯の暖かい海域に生息し、夏から秋にかけて、暖流に乗って分布を広げ北海道でも確認されています。石川県にもやってきますが、冬の水温は10℃を下回るため、寒さに耐えることができず死んでしまいます。当館には数年に1度くらいの頻度で、定置網にかかったソウシハギがやってきます。こういった、暖かい海にすむ魚が、暖流に乗って北上し繁殖できずに死滅することを、無効分散といい、それをおこなう魚を季節来遊魚といいます。多くの種が冬には死んでしまいますが、最近は海水温の上昇もあり流された先で定着する魚もいるそうです。

パリトキシン

フグ毒で有名なテトロドトキシンよりも強い毒性を持つ、パリトキシンですが、ソウシハギは生まれた時からパリトキシンをもっているわけではありません。それをもっているイソギンチャクを食べ、その毒が内臓に蓄えられるのです。パリトキシンはソウシハギのほかにも、ハコフグやアオブダイなどの魚も持っていて、これらの魚を食べたことによる死亡事故も起こっています。ソウシハギの場合は内臓に毒をもち、身に毒はないとされていますが捌く際に内臓を少しでも傷つけてしまうと、漏れ出た毒によって食中毒を起こしてしまいます。パリトキシンは加熱しても毒性はなくなるので、火を通して食べることはできません。ソウシハギは内臓に毒を持ってい

ますが、魚によっては身に毒をもっているため、なじみのない魚を食べる際は一度調べてから食べるようにしてください。

展示してない理由

現在ソウシハギは展示していません。当館で飼育している個体は体長50cmくらいと大きく、その大きさと温かい水温を好むため展示できる水槽がなかなかありません。また、おちよぶくちが災いしてほかの魚と一緒に水槽に入れた際にエサの取り合いに負けてしまうため、なるべく単独で飼育しなくてはなりません。近縁種であるカワハギやウマヅラハギを展示している水槽では、カサゴや、アオハタといったエサを捕まえるのが得意な魚と一緒に泳いでいるのでエサの撒き方にすごく気を遣います。ソウシハギはカワハギたちに比べかなり大きいので、少し狭め水槽に入れたときに、器用にバックするなどできますが、体の向きを反転させることに時間がかかってしまうため、ほかの魚にエサをとられてしまいます。今は、予備水槽でウスバハギとハリセンボンと一緒に泳いでます。



ウスバハギ

予備水槽とは、さまざまな理由で展示水槽に出すことのできない生きものを飼育するところで、普段はお客さんから見えないところにあります。裏側探検隊（土曜日のみ開催）に参加すると予備水槽にいる生きものに会うことができるので、その際はぜひじっくり観察してみてください。

〔伊藤〕

リュウグウノツカイの確認記録

当館では開館以来より県内漁業者のご協力のおかげで、非常に珍しい深海魚「リュウグウノツカイ」と関わる機会が多くなりました。そのなかには、生きた状態で水槽に展示することに成功した事例もあり、最長で13時間30分の生存が確認されました。また、リュウグウノツカイは体の一部を「自切」という生態で知られています。外敵に襲われたときに逃げるためや、エネルギー消費を抑えるためなど、さまざまな説が唱えられていますが、はっきりとは分かっていません。当館で確認した個体の中には恐らく自切したと思われる、極端に全長が短い個体も数例見られました。

今回は2015年（平成27年）以降に当館で確認したリュウグウノツカイの記録を一覧にご紹介したいと思います。

確認記録（表1）を見ると、七尾市や志賀町が特に多く、

そのほとんどが定置網に入網した個体です。これらの地域は定置網の数が多いため、リュウグウノツカイが網に入ってしまう可能性が高く、目撃情報が多い理由の一つと考えられます。

反対に、羽咋市方面では漂着個体の目撃情報が多く集まっています。羽咋市には巨大な砂浜の千里浜海岸が広がっているため、おそらく衰弱したリュウグウノツカイが水深の浅い千里浜海岸に迷い込んだ結果、漂着してしまうことが多いのではと考えられます。

当館では、これからもリュウグウノツカイの生態を解明するため、漂着・目撃情報を集めています。皆さまもリュウグウノツカイを見かけた際は、ぜひ当館にご連絡ください。

表1 当館でこれまで確認したリュウグウノツカイの記録一覧

事例	確認年月日	確認場所	全長
①	2015年12月14日	小松市 安宅海岸	282cm
②	2015年12月22日	志賀町 西海定置網	280cm
③	2016年12月20日	能登町 小浦	約300cm
④	2017年12月16日	羽咋市 千里浜海岸	
⑤	2019年1月31日	七尾市 岸端定置網	384cm
⑥	2019年2月18日	七尾市 岸端定置網	430cm
⑦	2019年2月18日	七尾市 岸端定置網	390cm
⑧	2019年3月2日	能登町 日の出定置網	170cm
⑨	2019年6月29日	志賀町 西海	74cm
⑩	2019年6月29日	志賀町 西海	148cm
⑪	2019年8月1日	七尾市 岸端定置網	140cm
⑫	2019年8月14日	羽咋市 一宮海岸	
⑬	2019年12月18日	七尾市 岸端定置網	340cm
⑭	2019年12月18日	七尾市 岸端定置網	366cm
⑮	2020年1月11日	七尾市 岸端定置網	380cm
⑯	2020年1月16日	珠洲市 小泊定置網	220cm
⑰	2020年1月21日	輪島市 白米町	約220cm
⑱	2020年2月3日	七尾市 白鳥定置網	135cm
⑲	2020年12月5日	七尾市 岸端定置網	334cm
⑳	2023年1月31日	七尾市 岸端定置網	363cm

※赤文字は当館に生きたまま搬入し、水槽に展示できた個体

※青文字は漂着個体

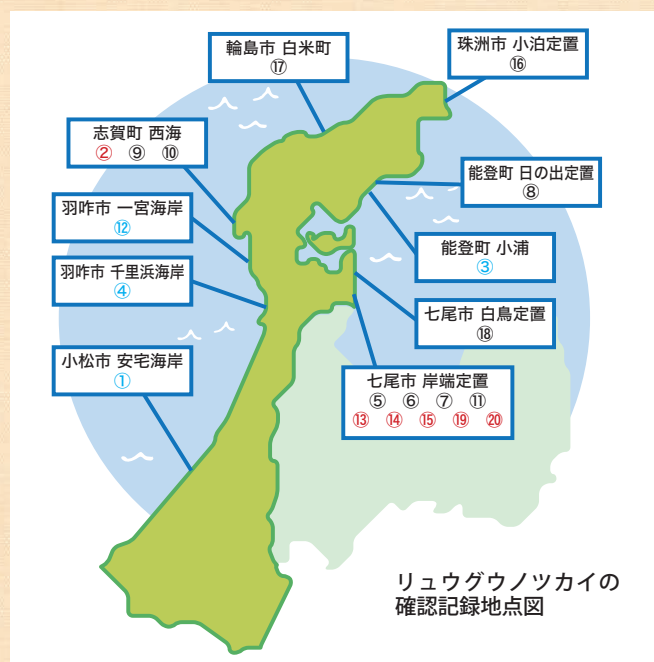
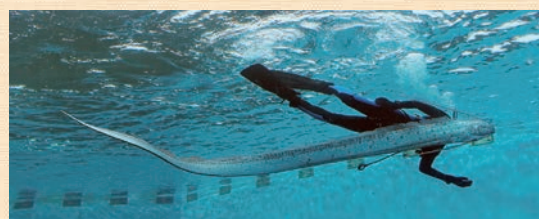


表2 情報提供や目撃情報一覧

確認年月日	場所
2019年6月13日	志賀町西海
2019年7月27日	加賀市
2019年7月30日	輪島市
2020年2月12日	内灘町荒屋海水浴場
2020年2月12日	富来町
2020年3月1日	小松市安宅海岸
2020年3月9日	能登町



2019年1月31日搬入個体（水槽内）



2020年1月16日搬入個体



2019年12月18日搬入個体（水槽内）



2020年2月3日搬入個体（尾びれ欠損）

〔義川〕

ぶんるい
分類ってなに？

～^{かい}界・^{もん}門・^{こう}綱・^{もく}目・^か科・^{ぞく}属・^{しゅ}種のおはなし～

地球が生まれたのはおよそ46億年前。

初めて地球に生きものが現れたのは、およそ37億年前。

現在この地球には、およそ157万種の生きものがいます。

その生きものは37億年前からそれぞれの場所や環境に合わせて進化してきました。

進化の結果、生きものごとに色や形、生態に違いが現れてきました。

生きものを仲間分けすることを「分類」を呼びます。

生きものは主に界・門・綱・目・科・属・種の7つの階級で分けられます。

ブリの分類を見てみよう！

いちれい
(一例)



種名板によくある学名は世界共通の名前。

実は、分類の「属」と「種」で成り立っています。
ブリなら学名が *Seriola quinqueradiata* となります。

属

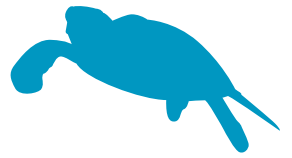
種

ちなみに標準和名は日本でしか使われていないので注意。

このように少しの違いで分類されます。
水族館の種名板には分類がかかれていますので、詳しく見てみると、生きものたちの見方が変わってくるかも！？

ようこそ水族館へ

～生きものたちのエピソード～



水槽で泳いだイトマキエイ

当館では地元の生きものを漁業者の協力のもと、多種収集しているのですが、なかにはとても希少なものに会うことがあります。そしてその出会いはいつも突然で、ドキドキさせられてしまいます。

今回紹介するイトマキエイという魚は、トビエイ科イトマキエイ属に分類される大型のエイの仲間で、胸ビレの一部が頭部前端に突出した頭ビレになり、その形が糸巻き状をしているのが特徴です。

さて、このイトマキエイと水族館の出会いには過去にも数回ありましたが、イトマキエイはとても繊細な一面を持ち、定置網から船上に取り上げ、狭い容器で港まで運ぶまでの間に傷つき、衰弱してしまうことがほとんどです。飼育スタッフが港に着いた時には死亡していたということもあります。これらの経験から、次にチャンスが来た時には輸送時間の短縮、衝撃の少ない輸送容器の準備という点を考慮し、運び込もうと考えていました。

そして迎えたイトマキエイ搬入のチャンス。2022年10月26日午前4時に枕もとの携帯電話の着信音が私を起こしました。寝ぼけた声で対応すると、その着信は漁業者の声でイトマキエイが獲れたとの連絡でした。その電話の中で、どのくらいの大きさの個体か、生きているのか、健康状態はどうか、できる限りの情報を聞き出し、水族館への搬入を試みることにしました。早朝に数名の飼育スタッフに連絡を取り、水族館に向かいました。私の自宅から水族館までは車でおおよそ30分。運転をしながらイトマキエイの搬入シミュレーションが始まります。それなりの大きさだと一人で持ち上げることはできないだろうということは容易に想像できましたが、いかに効率よくトラックや容器の準備を整えられるか、港ではどのような状態でイトマキエイがいるのか、頭の中でいろいろな状況を想定しながら水族館に向かいました。そして水族館で搬入用のトラックに乗り換え、容器を荷台に積み、港に向かいます。今回用意した容器はテント生地で作られた大きな円筒型の容器です。輸送中にイトマキエイが傷つくにくりと考えたからです。

港に着くと大きなタンクに一匹のイトマキエイが収容されていました。想像よりも大きく、容器はとても狭そうに見えました(左写真)。早く大きな輸送容器に移し、水族館に運び込みたいところですが、大きなイトマキエイをトラックの荷台の輸送容器に移すことは人の力ではできません。漁業者はすぐさま、フォークリフトを用意してくれました。トラック荷台の輸送容器と同じ高さまでフォークリフトで高く持ち上げてもらえたおかげで、無事輸送容器に収容することができました。

今までにはなかった新たな搬入方法であったこと、また港から水族館までの距離が比較的近かったこともあり、無事、生きた状態で水族館に連れてくることができました。イトマキエイが生きた状態で当館に運び込まれたのは37年ぶりのことで、「ジンベエザメ館 青の世界」に移し入れました。体盤長100cm、体盤幅216cm、体重73.0kgの大きなイトマキエイ(オス)が胸ビレを羽ばたかせるように泳ぐ姿はとても雄大で、見入ってしまうほどでした(右写真)。

残念ながら今回のイトマキエイは2日しか生かすことができませんでしたが、いつか、この水槽で優雅に泳ぐイトマキエイの姿をたくさんの来館者に見ていただきたいと強く思いました。次の出会いはいつかわかりませんが、飼育困難なイトマキエイを多くの方に見てもらえるよう、今日も頭の中で搬入シミュレーションを行っています。

〔加藤雅〕



飼育員がとらえた 奇跡の一枚



「突如現れたマーク」

ある日、私はポスターに使用するために動物たちの写真を撮っていました。この出来事は、カリフォルニアアシカの「コウスケ」の写真を撮っているときに起こりました。

このマークには後で写真を見返していた時に気付いたのですが、ちょうどいい角度で光が当たったのか、コウスケの首元になんとハートマークが浮かび上がっていたんです!!しかも、このとき何十枚も写真を撮ったのですが、ハートマークが写っていたのはこの1枚だけでまさに奇跡の1枚!!だったんです。携帯電話の待ち受け画面にしたら何かいいことが起こりそうな気がします。

〔新治〕

企画展の開催



「能登へやってくる旅人たち展」 (2022.10.1 ~ 12.15)



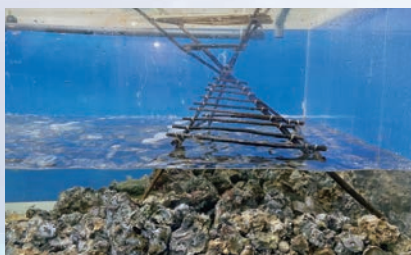
たくさんの自然に囲まれた能登の海ではとても多くの生きものを見ることができますが、その中には本来は遠く離れた場所で暮らしている生きものもいます。今回行った企画展「能登へやってくる旅人たち展」ではそんな生きものを中心に展示を行いました。

今回展示を行ったのは、南の海から海流や「流れ藻」と呼ばれる海藻と一緒にやってくる「季節来遊魚」や、広い海の中を泳ぎ回って暮らしている「回遊魚」、川で生まれて海で育った魚が産卵のために再度川に戻ってくる「遡河魚（そかぎょ）」と呼ばれる魚たちです。「季節来遊魚」はハナオコゼやツバメウオ、ハリセンボンなどの暖かい海で生まれた魚たちです。この魚たちは能登の海までやってきたはいいものの、冬の寒さに耐えられず水温の低下とともに死んでしまうため、暖かい環境を用意して飼育を行う必要があ

りました。「回遊魚」はマアジの展示を行いました。このマアジは、ちょうど当館の周辺を泳いでいるタイミングを見計らって採集を行った個体です。「遡河魚」はニホンウナギやアユの展示を行いました。能登周辺にはあまり大きな川はないのですが、小さな川でも産卵のために遡上してくる魚たちを見ることができます。

さまざまな生きものを見ることができる能登の海の中でも、限られた時期しか見ることができない生きものも多く暮らしています。今回の企画展を通して、そんな生きものたちのことを少しでも知ってもらえたのなら幸いです。
〔加藤大〕

続・大漁展～里海の豊かな恵み～ (2023.1.7 ~ 2023.4.2)



私たち日本人の魚食文化は漁業者の手によって支えられています。そして、当館で展示している生きものの多くも

能登島を含めた県内の漁業者の方々にによって漁獲されたものであり、当館もまた漁業者の手によって支えられているものの1つです。そこで、ぜひみなさんに漁業者の方々の活躍について知ってもらいたいという思いから、この企画展では、石川県で行われている漁法にはどのようなものがあるのかを紹介し、それらの漁法で漁獲される生きものを含めた10種約100点を展示しました。みなさんも一度は耳にしたことがあるような定置網漁法や底引き網漁法はもちろん、今ではもう行われていないボラ待ちやぐら漁など一風変わった漁法についても紹介しました。

また、漁業者が自信を持っておすすめする魚介類、石川県のプライドフィッシュについても紹介しました。この企画展を通して、日頃なんとなく口にしている水産物がどのように漁獲されているのかに興味を持つと、毎日の買い物や食事がさらに楽しくなるかもしれませんね。〔木森〕



開館40周年イベントの開催（10～3月）

2022（令和4）年度に開館40周年を迎え、前号でもさまざまな記念イベントの開催を紹介しましたが、秋以降も各種イベントを開催しました。

・漁師鍋振る舞い

2022年11月3日の文化の日には地元の食材を身近に感じてもらうと、大ぶりのフグの身が入った漁師鍋を各回300食、午前午後の2回、無料で入場者の皆さんに振る舞いました。秋も深まりつつあるこの時期に温



かくておいしい鍋に舌鼓を打ち、「おいしかった!」「体が温まった」などと好評をいただきました。また、同日バッテリーカー広場では、地元観光協会による特産品や食材の販売も行われ、まさに食欲の秋にふさわしい一日(!?)となりました。

・開館40周年記念絵画作品展

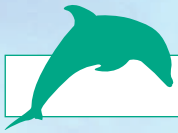
小学生を対象に「夢の水族館～こんな水族館があったらいいな～」をテーマに絵画を募集し、その中から最

優秀賞、優秀賞をはじめとした21点を2023年1月14日から2月28日まで、海の自然生態館内にて展示しました。残念ながら賞に選ばれなかった作品も含めて小学生の皆さんの表現力や想像力に感心するばかりでした。今回描かれたような理想の水族館に近づけるよう41年目のとじま水族館は歩んでいきます。



〔高橋〕





ジンベエザメ 2 頭の愛称決定 !!

2022 年 9 月末、のとじま水族館では、「ジンベエザメ館 青の世界」(以下、ジンベエザメ館と記述)で展示されていたジンベエザメの「スズベエ」と「ナナベエ」に替わり、新たな 2 頭のジンベエザメが仲間入りしました。それを記念に愛称を募集することになり、11 月 5 日～ 27 日の期間、ジンベエザメ館内に投票用紙を設置し、搬入場所や大きさなど、各個体に関係した愛称候補 5 つから 1 つ選んでいただく方法で募集を行いました。

投票の結果、1934 名に参加していただき、投票数が最も多かったことから、オスは「ハチベエ」、メスは「ハク」に決定しました。この決定した愛称は、12 月 4 日からジンベエザメ館内に特設パネルを設置することで発表しました。投票に参加していただいた皆様、誠にありがとうございます。

さて、ここからは 2 頭の特徴を少し紹介していきます。まず「ハチベエ」は、全長が約 3.9m です。搬入時、尾

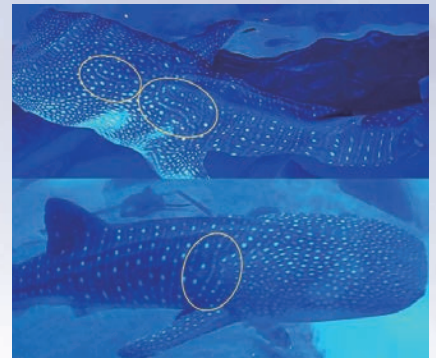
ビレに傷がありましたが、水槽に展示する頃には目立たなくなりました。一方、「ハク」は、全長が約 4.1m とハチベエに比べてやや大きい個体です。一見どちらの個体か見分けるのが難しいのですが、実は大きさや性別だけでなく、背側の模様にも違いがあります。頭部(胸ビレ付近)の斑点模様の中に、白い縦線(頭を上にして縦)のような模様が目立つのが「ハク」、白い横線のような模様が少し目立つのが「ハチベエ」です。また給餌する際、それぞれポジションにつき体を斜めにして摂餌しますが、「ハク」は立ち泳ぎ気味



の体勢で留まって食べることが多いように感じます。これらの特徴以外にも、よく観察するとちがいが見えてくるかもしれません。ジンベエザメ館では、近くで見ることができる場所もありますので、ご来館の際には 2 頭を見比べてみてくださいね!

今後、「ハチベエ」と「ハク」ともに皆様に愛されていきますように。成長する姿を一緒に見守っていきましょう。

〔田中〕



縦線が特徴の「ハク(メス)」(写真上)と横線が特徴の「ハチベエ(オス)」(写真下)

ズワイガニのメス『^{かがやきひめ}輝姫』の展示

2021 年にズワイガニのオス(加能ガニ)の最高峰ブランドとして『輝』が誕生したことは記憶にも新しいことだと思いますが、2022 年 11 月に更なる新ブランド^{こうぼこ}が誕生し、ズワイガニのメス(香箱ガニ)の最高峰を『輝姫』として認定することになりました。その基準は高く、甲羅の幅は 9.5cm 以上、かつ『輝』と同じく体に傷や欠けがない、色が美しい、身入りが良い、資源管理への積極的な取り組みをおこなっているなどがあります。漁解禁の初日は県全体で 20 尾が認定されました。『輝』が 1 尾だったのに対し、多



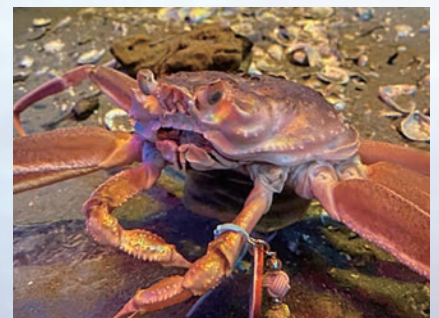
いように思うかも知れませんが、県内で獲れた香箱ガニの初日の漁獲総数は 348,180 尾だったので十分に希少性が高いことが分かります。

そんな『輝姫』が当館にやってきた理由は、県の漁業協同組合が多くのお客様に知っていただき、香箱ガニの PR 活動に繋がればという思いと重なり、展示に至りました。展示水槽では『輝姫』と一緒に通常サイズのメスも展示しましたが、並ぶとまるでオスとメスを展示しているかのように、大きさに差がありました。幸い、環境にも早く慣れてくれたのか、数日でエサの



イカやオキアミを食べるようになり一安心しました。

また、時折、お腹のふんどし部分を開き、産卵した卵(外子)に新鮮な海水を送る様子も観察できました。



今シーズンは 61 尾が『輝姫』に認定されましたが、その中の 1 尾を当館で展示することができたと思うと、貴重な体験をしたと心から思うと同時に、何より、たくさんのお客様にご覧になってもらえたことをうれしく思います。

〔平田尚〕

EVENT & INFORMATION

企画展

むかし、むかしの魚展

●開催期間 4月8日(土)～7月2日(日)

夏はやっぱり金魚でしょ!展

●開催期間 7月8日(土)～10月1日(日)

チャレンジメニュー

里海教室

●開催日 6月25日(日)

※定員20名(小学生とその保護者) 10:00～15:00

※開催時間・定員は変更の可能性あり

※要予約



イルカ・アシカショー

イースター～春のお祭り～

●開催期間：～5月28日(日)

夏のイルカ・アシカショー

●開催期間：7月15日(土)～8月31日(木)

その他

・8時開館&ペンギンのお出迎え ●開催日 5月4日(木祝)～5月6日(土)
8月12日(土)～8月14日(月)

・能登の豊かな里海講座 ●開催日 5月14日(日)・7月23日(日)

・夏休みプチ講座 ●開催日 7月30日(日)・8月6日(日)・8月20日(日)

・水族館裏側探検隊 ●開催日 毎週土曜日2回

※繁忙期(4/29・5/6・8/12)は除く 定員あり(先着順)



お得情報

入場無料

中学生以下無料

水族館 5月5日(金祝) こどもの日

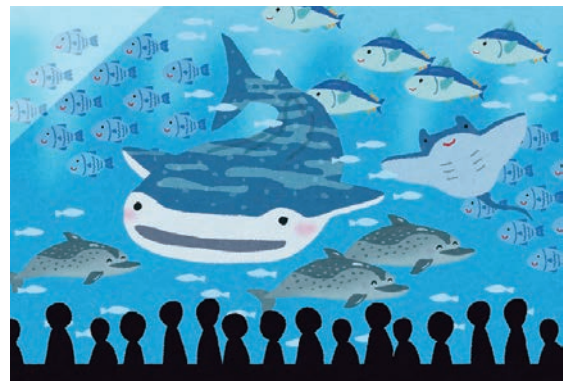
海づりセンター 5月5日(金祝) こどもの日

7月17日(月祝) 海の日

水族館・海づりセンター共通 65歳以上無料 9月18日(月祝)

中学生以下入場無料 毎月19日 育児の日

〔高橋〕



飼育員のお仕事



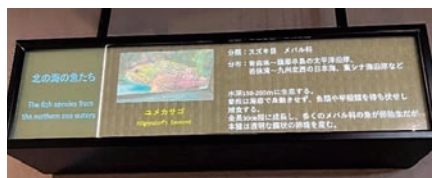
「種名板・解説板の作成」

水族館で欠かせないものとして皆さんは何を思い浮かべますか？多くの展示生物はもちろん、ショーやイベントなども欠かせませんが、その他に重要な役割を果たすものがあります。その一つが「種名板」や「解説板」です。水槽や生きものの近くに必ずと言っていいほど設置されているもので、当館では飼育員が作成しているものも多数あります。今回は飼育員が作成した個性的な解説板もあわせて紹介していきます。

まず、「種名板」と「解説板」の違いですが、種名板にはその生きものの種名、写真、生息地などの図鑑にも載っているような基本的な情報が書かれています。一方、解説板では種名板に記載しきれない、その種特有の習性や生態、当館の個体ならではの情報を記載しています。

種名板は生きものの基本的な情報ですので、ほとんどの水槽周りに掲出されています。当館ではおよそ400枚もの種名板があり、見やすくするため統一されたデザインとなっています。

一方解説板は、飼育員自身で作成しており、その中には個性的なものもあります。



統一されたデザインの種名板



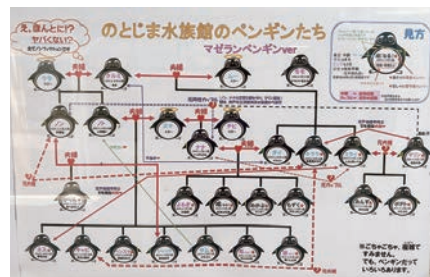
カマイルカの骨格標本だけでなく、体のつくりなどを紹介する解説板



「マングロープの水辺」コーナー、テッポウウオの名前の由来やその特徴的な生態について紹介



当館で最も個性的と言っても過言ではない小水槽群の解説板



飼育員だからこそ知っている当館のマゼランペンギンたちの関係性を紹介した解説板

私たち飼育員は生きものの管理が最も大切な仕事ですが、みなさんに生きものについて知ってもらうための種名板や解説板を作成することも私たちにとっては重要な仕事のひとつなのです。

そして、この種名板や解説板を通して少しでも生きものやその環境に興味、関心を持ってもらって帰っていただけるとうれしい限りです。

〔新治〕

のとアクアニュース

9/17 ~ 10/31	イルカ・アシカショー「ハロウィンショー」開催
10/1 ~ 12/25	企画展「能登にやって来る旅人たち展」開催
10/10	海づりセンター 女性入場無料
10/30	チャレンジメニュー「イルカ教室」開催
11/3	漁師鍋振る舞い開催
11/5 ~ 27	ジンベエザメ愛称募集実施
11/5 ~ 12/4	ジンベエザメウェルカムフェア開催
11/6	能登の豊かな里海講座開催
12/4	ジンベエザメ 2 頭愛称発表
11/20	いしかわ子育て支援メッセ参加 (金沢市)
12/1 ~ 3/19	開館時間変更
12/1 ~ 25	イルカ・アシカショー「クリスマスショー」開催
12/1 ~ 25	ペンギンのクリスマス散歩開催
12/1 ~ 25	イワシのビッグウェーブ (クリスマスバージョン) 開催
12/24・25	サンタダイバー登場!! 開催
12/29 ~ 31	休館
1/1 ~ 3	お正月イベント開催および中学生以下入場無料
1/7 ~ 4/2	企画展「続・大漁展 ~里海の豊かな恵み~」開催
1/8	能登の豊かな里海講座開催
1/14 ~ 2/28	開館 40 周年記念絵画作品展開催
2/26	チャレンジメニュー「さかな教室」開催
3/18 ~ 5/28	イルカ・アシカショー「イースター ~春のお祭り~」開催
3/20 ~	開館時間変更
3/20 ~ 4/6	新小学 1 年生入場無料



チャレンジメニュー「イルカ教室」



クリスマスショー



ジンベエザメ2頭の愛称決定

実習・職場体験等

受け入れ中止

会議・研修会の出席

10/19 ~ 20	(公社) 日動水協 設備会議 (鹿児島市)
11/2	(公社) 日動水協 中部ブロック園館長会議 (オンライン)
11/9 ~ 10	(一社) 日水協 トレーニングセミナー (新潟市)
11/19	(公社) 日動水協 イルカ会議 (オンライン)
11/28 ~ 29	(公社) 日動水協 水族館技術者研究会 (大田原市)
12/7	(公社) 日動水協 中部ブロック獣医師研究会 (名古屋市)
12/14	(公社) 日動水協 海獣技術者研究会 (廿日市市)
12/14	(公社) 日動水協 中部ブロック飼育技術者研修会 (名古屋市)
12/15 ~ 16	(公社) 日動水協 水族館参加型研修会 (ワークショップ) (七尾市)
1/12	石川県博物館協議会 博物館あり方検討会 (金沢市)
1/26	(公社) 日動水協 中部ブロック事務主任者会議 (オンライン)
2/9	石川県博物館協議会 博物館等職員研修会 (金沢市)
2/20	(一社) 日水協 トレーニング勉強会 (オンライン)
2/26	全国ペンギン会議 (オンライン)
3/8 ~ 9	(公社) 日動水協 中部ブロック獣医師研究会 (浜松市)
3/13 ~ 14	(一社) 日水協 水族館研究会 (川崎市)



お正月イベント
「ウサギダイバーの新年メッセージ!!」

